

枚方淀川探鳥会

2025年9月

2025年(令和7年)9月7日(日) 9:00~12:00

日本野鳥の会大阪支部

前田初雄、甲田正二、西脇淳浩、香月清宏

松井正夫、新名泰博、平 軍二 (☎090-6901-1425)

I 今月の鳥はコサギ

①コサギ ペリカン目サギ科コサギ属

L 61cm 漢字名 小鷺

学名 *Egretta montanus* 英名 Little Egret

7月探鳥会でアオサギ・ダイサギ・ササゴイなどと競合する天野川魚道の餌場で、餌とりに成功したコサギを真上から見る事ができた。

枚方淀川探鳥会の観察チェックリストからわかるように、平が担当して13年間のサギ科の普通種3種の観察回数は、アオサギ124回、ダイサギ120回、コサギ111回と100回を超えており、ほぼ毎月観察できた。



コサギ(天野川魚道の餌当番) 20250706(平)

②大阪府のコサギ →

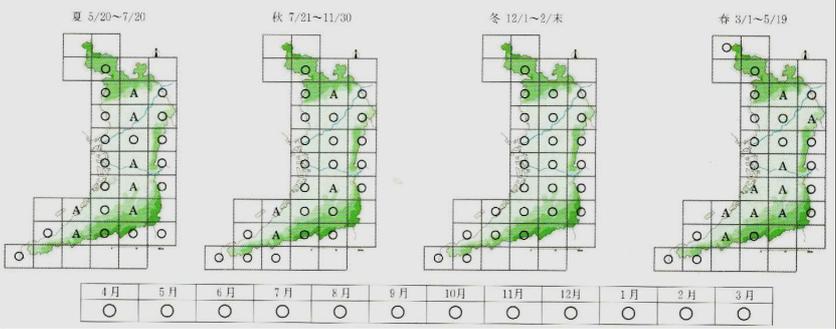
(大阪府鳥類目録 2016)

大阪府の2万5千分の一の半分ほどの区画に繁殖個所があることがわかる。

枚方淀川探鳥会でほぼ一年中観察できるものの、営巣個所がないと思われる。

吹田市周辺では茨木市耳原大池の中の島にサギのコロニーがあり、コサギの他に、ゴイサギ・アオサギ・ダイサギ、そしてカワウなどが共存して営巣している。

78. コサギ *Egretta garzetta* ○ 留鳥

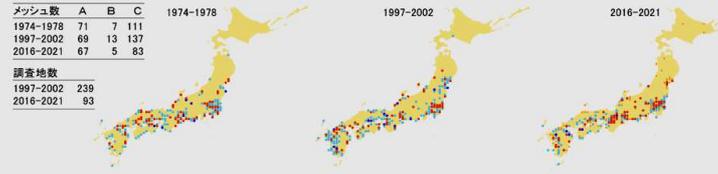


コサギ 分類:ペリカン目サギ科 Little Egret *Egretta garzetta*

全長:♂61.9cm ♀57.9cm 翼長:♂293.5mm ♀280.1mm 尾長:♂104.8mm ♀97.7mm 体重:♂604.5g

環境省レッドリスト: —

各年代の分布状況の変化



← ③日本のコサギ繁殖地分布

(鳥類分布調査会 2021年)

1990年代と2010年代にほぼ同じコースを調査できた現地調査の記録では、239地点から93地点へと激減していた。

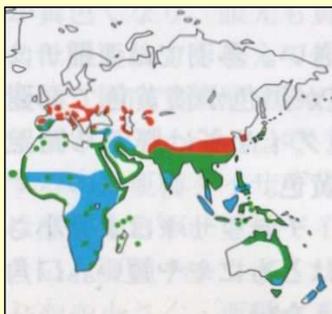
埼玉県事例では、その要因として外来魚の増加に伴う小魚の減少や、水田の圃場整備にともなう水田の水生物の減少、オオタカなどの猛禽類の増加に伴う被捕食率の増加などが挙げられている。

④世界のコサギ分布図

真木・大西(日本の野鳥590)

2000年平凡社

日本では留鳥として本州以南に繁殖するが、国内で地域的な移動、東南アジアへ渡り越冬するものがある。ユーラシア大陸一円に広く分布しているが、欧州では南に移動し、アフリカ大陸で越冬している。



⑤榎本佳樹著 復刻版「野鳥便覧」より抜粋

昭和10年代のサギ4種

種名	コサギ	チュウサギ	コモモジロ (ダイサギ)	アオサギ
猟鳥・禁鳥別	禁鳥	禁鳥	禁鳥	猟鳥
渡り	留鳥 (所により夏)	夏鳥	夏鳥	漂鳥
形状	鶴型	鶴型	鶴型	鶴型
大きさ	ハシボソガラス大	トビより小	トビ大	トビより大
棲住数の多少	少	地方によりやや普	少	少、所により普

・コモモジロ :ダイサギは繁殖期に脚の上部が桃色になるため、亜種ダイサギはモモジロ、亜種チュウダイサギはコモモジロと呼ばれていた。

・チュウサギの棲住数(個体数)は、コサギ・ダイサギより多かったのだろうか?

V 国際シンポジウムの案内

共催：日本野鳥の会大阪支部、(公財)日本野鳥の会 他
申込：不要 参加費：無料(博物館入館料300円必要)



イギリスより専門家が来日!

国際シンポジウム

2025年

9月15日(月・祝)

13:00-16:30

大阪市立自然史博物館

大阪湾岸「いのち輝く」を未来へ

～はじめよう! 連携が生み出す 豊かな生物多様性～

40年以上前に市民運動から生まれた先駆的な人工干潟・大阪市 南港野鳥園 2025.7.25 撮影



ヘラシギ

基調講演

「沿岸域のネイチャーポジティブとは」

道家 哲平 (国際自然保護連合日本委員会会長)

特別講演

「渡り性水鳥の危機的状況と大阪湾の重要性」

ニコラ・クロックフォード (英国立鳥類保護協会主任役員・シギチドリ研究員)

「沿岸生息地再生に関する国際的な事例研究から大阪湾を考える」

ジェフ・キュー (英国立鳥類自然保護協会・湿地再興アドバイザー)

パネルディスカッション

「大阪湾岸の生物多様性を高めるために」

パネリスト：講演講師3名・納家 仁 (日本野鳥の会大阪支部長) ほか
ファシリテーター：佐久間 大輔 (自然史博物館)

*敬称略

日時 9月15日(月・祝)
13:00-16:30 (開場 12:30)

会場 大阪市立自然史博物館 講堂
06-6697-6221(担当：佐久間)
monitor@omnh.jp

アクセス 大阪 Metro 御堂筋線 [長居] 下車
徒歩 800m

申し込み 不要 (定員 170 名)

参加費 無料 (博物館入館料必要)

言語 日本語・英語 (通訳あり)

※ ライブ・アーカイブ配信
YouTube@大阪市立自然史博物館



問い合わせ シンポジウム開催事務局
npsympo2025@nature.or.jp



おおさか生物多様性

共催：国際自然保護連合日本委員会、(公財)日本野鳥の会、(公財)日本自然保護協会、
(公財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン、(公社)大阪自然環境保全協会、
日本野鳥の会大阪支部、大阪市立自然史博物館

後援：日本景観生態学会、応用生態工学会、自然環境復元学会、日本緑化学会、日本生態学会、環境社会学会、
環境科学会、環境アセスメント学会、
関西自然保護機構、
鳥類保護連盟「コアジサシ研究センター」

このイベントは 2025 年度環境再生保全機構地球環境基金の
助成を受けています。助成名「SDGs万博市民アクション」

